

現行計画(芳賀・宇都宮東部地域網形成計画)の
取組状況の評価と芳賀町・宇都宮市の
公共交通の現状等

令和5年3月24日

- 1 「芳賀・宇都宮地域公共交通計画」の策定に向けた全体スケジュールについて
- 2 「芳賀・宇都宮地域公共交通計画」内容の方向性について
- 3 現行計画の取組状況
- 4 現行計画の目標指標の達成状況
- 5 芳賀町・宇都宮市の公共交通の現状・課題
- 6 法改正・栃木県の動向
- 7 関連計画等の内容

1 「芳賀・宇都宮地域公共交通計画」の策定に向けた全体スケジュールについて

令和
4年
11月

- ✓ 第1回 地域公共交通活性化協議会の開催
(議題：計画内容の方向性について)

令和
5年
3月頃

- ✓ 第2回地域公共交通活性化協議会の開催
(議題：・ 現行計画の取組状況の評価と
芳賀町・宇都宮市の公共交通の現状等について
・ 課題の解決に向けた施策の方向性について)

今回ご議論
いただく内容

令和
5年
8月頃

- ✓ 第3回地域公共交通活性化協議会の開催
(議題：計画（素案）について)

※ 駅東側LR Tの開業, バス路線再編

令和
5年
10月頃

- ✓ パブリックコメントの実施（1か月程度）

令和
5年
11月頃

- ✓ 計画（案）の作成
- ✓ 第4回地域公共交通活性化協議会の開催
(議題：計画（案）について)

令和
5年
12月頃

- ✓ 計画の策定・国へ計画書の送付

2 「芳賀・宇都宮地域公共交通計画」内容の方向性について

○ 新たな「地域公共交通計画」の策定にあたっては、現行計画の内容を引き継ぎつつ、努力義務化された目標指標の設定を検討するとともに、環境変化等を踏まえ、目標を達成するために行う事業の拡充・見直しや、国庫補助金対象路線の位置づけ等を行う。

【凡例】 ○:現行計画の内容, ⇒現行計画の見直し箇所

計画期間

○ 2015(平成27)年度～2024(令和6)年度
⇒ 2023(令和5)年度～2032(令和14)年度に変更

計画区域

○ 宇都宮市東部地域から芳賀町
⇒ 宇都宮市全域から芳賀町に計画区域を拡大

計画の目標

【目標指標】 ⇒ 適宜, 見直し・更新を行う

- 公共交通利用者数
- 公共交通カバー率
- 公共交通に対する満足度
- 計画区域の従業人口

【追加検討の指標】

- 例1: 「公的支援を受けている交通事業の収支状況」, 「公的資金投入額」
- 例2: (都市拠点⇔地域拠点)の幹線バスのサービス水準
- 例3: (都市拠点⇔地域拠点)の運賃負担額 等

目標を達成するために行う事業

- LRT整備(駅東側エリア)
⇒ 駅西側エリアに延伸
- バスネットワーク再編(駅東側エリア)
⇒ 両市町全域に拡大
- 地域内交通の導入
⇒ 地域内交通の充実
(区域の拡大・利便性の向上等)
- 交通結節機能の強化(駅東側エリア)
⇒ 駅西側エリアに拡大
⇒ 地域拠点における乗継ポイントの整備
- 利便性の向上(ICカードの導入)
⇒ (デジタル技術等の活用)
例:ICカードデータを活用した公共交通サービスの充実 等
- モビリティ・マネジメントの実施
⇒ 現行内容の継続 (ただし内容は充実)

その他

⇒ 国庫補助金対象路線の位置づけ

3 現行計画の取組状況

取組状況

①JR宇都宮駅東側のLRTの導入【芳賀・宇都宮】

令和5年8月のLRTの開業に向けて、駅東側の優先整備区間の工事が令和5年3月に完了する予定であるなど着実に進捗している

②交通結節機能の強化(トランジットセンターの整備)【芳賀・宇都宮】

LRTの開業と合わせた供用開始に向けて、芳賀工業団地や清原工業団地などのトランジットセンターの整備が着実に進捗している

③芳賀・宇都宮東部地域におけるバスネットワークの再編【芳賀・宇都宮】

LRTの開業と合わせたバスネットワークの再編に向けて、再編後の運行経路や運行本数などをまとめた「地域公共交通利便増進実施計画」を令和5年4月に策定する予定であるなど着実に進捗している

④デマンド交通について【芳賀】・地域内交通について【宇都宮】

- ・ 利用料金の低減を図るとともに、車両1台を追加するなど利便性向上に取り組んでいる【芳賀】
- ・ 駅東側エリアの郊外部をはじめ、市街地を含む3か所に地域内交通を導入【宇都宮】

⑤ICカードの導入【芳賀・宇都宮】

- ・ 公共交通の利便性の向上を図るため、交通系ICカード「totra」を令和3年3月にバスに導入(決済率83.0%)【芳賀・宇都宮】
⇒ ODなどの利用状況データが活用可能となった。
- ・ また、地域内交通については、令和4年9月に導入【宇都宮】 ※ LRTは開業と合わせて導入予定
- ・ 運賃負担軽減策として「バスの上限運賃制度」、「地域内交通-バス間の乗継割引制度」を導入【宇都宮】

⑥モビリティマネジメントの実施【芳賀・宇都宮】

- ・ LRT開業を1年後に控えたタイミングに、公共交通のイメージアップに繋がる情報等を広く周知し、期待感を醸成するため、芳賀町民全世帯に対する「totra」の配布や、宇都宮市民全世帯を対象に公共交通の情報を網羅した「公共交通利用促進パンフレット」を配布などに取り組んだ
- ・ 小学生を対象に公共交通に対する意識転換を促進するため、学校や交通事業者等と連携しながら「バスの乗り方教室」を開催

階層性のある駅東地域の公共交通ネットワークの構築

公共交通の利便性向上

公共交通の利用促進

【取組状況のまとめ】

- ・ 計画に位置付けた駅東側LRTの整備などの「公共交通ネットワーク構築」に向けた取組については、総じて着実に進捗
- ・ ICカードの導入による「利便性向上」の取組は、新たにサービスを開始
- ・ 「利用促進」については、令和4年度から取組を充実して展開

4 現行計画の目標指標の達成状況

目標指標	計画策定時 (H27年度)	目標値 (R6年度)	最新数値 (R4年度)	達成率	達成状況の評価
①公共交通の利用者数	1,557万人/年	2,037万人/年	1,148万人/年	73.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍以前は、公共交通ネットワークの充実等に取り組んできたことから微増傾向であった。 ・ コロナの流行により、外出自粛等の影響により利用者数は大きく減少したところであるが、行動制限の緩和に加え、宇都宮市において公共交通機関における感染症対策や、「バスの上限運賃制度」などの運賃負担軽減策など取り組んできたこともあり、直近では回復傾向であることから、今後も回復していくものと考えられる。
②公共交通のカバー率	70.5%	97.4%	95.4%	97.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域内交通の導入」などの公共交通ネットワークの充実に取り組んできたことから上昇しており（芳賀町は100%）、今後のLRTの導入やバス路線再編などにより目標を達成できる見込み
③公共交通に対する満足度	宇都宮市： 37.9%	宇都宮市： 49.4%	宇都宮市： 38.3%	宇都宮市： 77.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域内交通の導入」などの公共交通ネットワークの構築や、「ICカード」の導入や運賃負担軽減策の導入などの利便性向上に取り組んでいるものの、LRTの開業やバス路線再編の実施前ということもあり、目標値を下回っている状況
	芳賀町： 55.4%	芳賀町： 62.5%	芳賀町： 40.1%	芳賀町： 72.4%	
④計画区域従業員数	10万3千人	10万3千人	10万7千人 (令和3年度実績)	103.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標値を上回っている状況にあり、LRTの導入などの公共交通ネットワークが充実することへの期待感の高まりが要因に含まれるものと思料

【現行計画の評価】

- ・ 「公共交通のカバー率」は、駅東側LRTの導入やバス路線再編など「公共交通ネットワークの構築」の取組が着実に進捗していることから、目標を達成できる見込み。
- ・ 「公共交通の利用者数」や「公共交通に対する満足度」は、公共交通サービス水準が向上するLRTの開業やバス路線再編の実施前ということもあり、目標を下回っている状況。
 ➡ 「利便性向上」に資する運賃負担軽減策の充実などに更に取り組むことで「満足度」を向上させるとともに、更にモビリティマネジメントを潜在的ニーズの高いターゲットへ強力に進めるなど「利用促進」を充実させ、一体的に取り組むことで「利用者数」の増加につなげていく必要がある。

5 芳賀町・宇都宮市の公共交通の現状・課題

現状

課題

公共交通ネットワーク【芳賀・宇都宮】

- ・ 芳賀町の公共交通利用圏域は人口比で100%カバー
- ※ 町域北部でバス路線の公共交通空白地が存在
- ・ 宇都宮市の公共交通利用圏域は人口比で約90%カバー

町域北部のバス路線空白地域の解消(芳賀町)

公共交通サービス【宇都宮】

- ・ 拠点間(都市拠点-地域拠点)を結ぶ幹線バスにおいて、運行頻度が一定のサービス水準(※)に満たない路線が存在(9路線/14路線) ※ オフピーク時の30分に1本以上

市街地部・郊外部の一部に残る公共交通空白地域の解消(宇都宮市)

- ・ 地域拠点から都市拠点までの運賃負担に差があったことから、日中の時間帯の「バスの上限運賃制度」などの運賃負担軽減策を導入

NCC形成に向けた拠点間を結ぶ幹線バス等の運行サービス水準の維持・充実

代表交通手段分担率【宇都宮】

- ・ バスの分担率が減少している一方で、自動車の分担率は上昇
→バス :2.4%(H22) ➡ 1.8%(H27)
→自動車 :66.2%(H22) ➡ 69.3%(H27)

駅東側LRT開業などの時機を捉えた段階的な運賃負担軽減策の拡充

バス【芳賀・宇都宮】

- ・ 利用者数はコロナの影響で落ち込み【宇都宮】
- ・ 利用者数の減少などにより赤字バス路線の運行費の補助額がコロナ以前と比べ増加傾向【芳賀・宇都宮】

自動車への過度な依存の脱却に向けて、モビリティマネジメントなどの公共交通利用促進策の実施

地域内交通等【宇都宮】

- ・ 利用者数は、コロナの影響により令和2年度に減少したものの、日常生活に密着した交通手段であることから、令和3年度は回復し、コロナ以前の利用人数を上回っている状況
- ・ 導入地域(H30,R2)の拡大により、補助額は増加しているものの、収支率は約3割台を維持。(市の目標は概ね達成)

交通事業者・地域等と行政が一体となった公共交通の維持・充実

デマンド交通【芳賀】

- ・ 利用者数は、コロナの影響もあり減少傾向が続いている。
- ・ 追加で1台を導入したことや、利用者数の減少により補助額は増加傾向したが、近年は横ばい傾向

公共交通の利用状況等

6 法改正・栃木県の動向

内容

計画策定にあたり考慮する事項

地域公共交通
活性化再生法
(R2改正)

- ・ 「地域公共交通計画」の策定の努力義務化
- ・ 持続可能な公共交通の実現の実現に向けた、定量的な目標設定, 評価の努力義務化
- ・ 「地域公共交通計画」と乗合バス等の補助制度の連動化

- ・ 宇都宮市全域を対象区域とした地域公共交通計画策定
- ・ 公的資金投入額などの定量的な目標の設定, 毎年度の評価の実施
- ・ 乗合バス等の補助制度の連動化への対応

地域公共交通
活性化再生法
(R5改正
見込み)

- ・ 「地域の関係者相互間連携に関する事項」の記載の努力義務化
- ・ バス・タクシー等地域公共交通事業者の再構築に関する仕組みの拡充
(公共交通分野におけるDX, GXなど)

- ・ 関係者それぞれの連携・役割分担等の記載
- ・ 公共交通分野における, DX・GXの推進策の検討

栃木県地域
公共交通計画
の策定

- ・ 栃木県は, 令和5年度に全県版の「地域公共交通計画」の策定を予定
【役割分担】
- ・ 栃木県:市町を連携する広域的な公共交通ネットワークを検討
- ・ 市町 :基本的に市町内の公共交通ネットワークを検討

栃木県との役割分担を
踏まえた計画内容の編成

7 関連計画等の内容

内容

計画策定にあたり考慮する事項

都心部まちづくりビジョン
(宇都宮)

- ・ LRTを基軸とした公共交通ネットワークと一体となった目指す都心部の姿を描いた「都心部まちづくりビジョン(R4.2)」において、都心部まちづくりの方針として「ウォークラブルなまちづくりの推進」を位置付け
【取組方針Ⅲ】
 - ・ LRT軸から商店街などの周辺を多様な手段でつなぐ、便利で移動しやすい環境づくり
 - ① 多様な交通手段の円滑な乗り換え環境の整備
 - ② 公共交通の利用促進
 - ③ 次世代モビリティの導入

都心部を循環するバス路線などの公共交通ネットワークの充実

駅西側LRT等の方向性
(宇都宮)

- ・ 「NCC」の更なる推進に向けて、「JR宇都宮駅西側のLRTの整備区間やバス路線再編の方向性」について令和4年8月に公表
【公表内容】
 - ・ 公共交通ネットワークの充実
 - ① 駅西側LRTの整備
 - 整備区間:「JR宇都宮駅東口停留場～宝木1丁目・駒生1丁目付近(教育会館付近)まで」
 - ② バス路線の再編
 - LRTの整備と合わせたバス路線の再編
 - ③ 地域内交通の充実
 - 既存公共交通との役割分担を踏まえつつ、市街地部の未導入地区への導入を促進

公共交通を補完するシェアモビリティ等の充実

交通結節機能の強化

脱炭素先行地域の選定
(芳賀・宇都宮)

- ・ 「脱炭素先行地域」として令和4年11月に環境省より認定を受ける。
【取組内容】
 - ・ 「ゼロカーボンムーブの構築」
 - ① LRTへの再エネ100%供給による「ゼロカーボントランスポート」の実現
 - ② バス運行とエネルギー管理を一体化したバスエネルギーマネジメントシステムによる電気バスの導入
 - ③ 公共交通の利用促進、地域内交通等のEV化 など

カーボンニュートラルに資する公共交通の導入

自動車から公共交通への利用転換